

性的少数者の人権

問題

なぜ、好きな人がいると言われると、異性のことだと思ってしまうのでしょうか。



「LGBT」という言葉をご存じですか？

LGBTとは、性的少数者を表す言葉の一つ。レズビアン(Lesbian・女性の同性愛者)、ゲイ(Gay・男性の同性愛者)、バイセクシュアル(Bisexual・両性愛者)、トランスジェンダー(Transgender・身体性の性と心の性の不一致)の頭文字を組み合わせた言葉です。LGBT以外にも、男女どちらにも恋愛感情を抱かない人や、自分自身の性を決められない人など、性的指向(どのような性別を好きになるのかということ)や性自認(自分の性をどのように認識しているのかということ)は多様なのです。

……イラストの問題について

異性だけが、恋愛対象とは限りません。

女性は男性を、男性は女性を好きになると思われがちですが、「同性を好きになる人」もいれば、「異性も同性も好きになる人」もいます。しかし、同性愛者、両性愛者の人の中には、少数派であるために差別や偏見^{へんけん}で苦しんだり、自分の性的指向を家族や周囲の人に打ち明けられなかったりする人たちがいます。また、本人に了承^{りょうしょう}なく、性的指向や性自認を暴露^{ばくろ}されること(アウティング)も、プライバシーに関わる重大な人権侵害^{じんけんがい}として問題になっています。

どうすればいいの？

性の多様性を認め合いましょう。

LGBTなど性的少数者に該当^{がいたう}する人は日本人の11人に1人^{*}の割合でいるとも言われています。もしかしたらあなたの隣^{となり}で、あなたの言動に傷ついている人がいるかもしれません。打ち明けたくてもそれができない雰囲気^{ふんいき}が学校や職場にあるかもしれません。まずは性の多様性について正しく理解し、知識を深めることが大切です。そうすることで、一人ひとりの性の多様性を認め合い、誰もが自分らしく生きることができる環境^{かんきょう}をつくることができます。